

鑑別診断ネモニクス

編集：徳田 安春

群星沖縄臨床研修センター センター長

楽しく勉強すると記憶に残りやすい

医学部受験時代を思い出しましょう。社会科の試験前などでは語呂合わせを使いましたね。次に、医学部時代を思い出しましょう。解剖や生化学の試験前などでは語呂合わせを使いましたね。そもそも人間はなぜ語呂合わせを使うのでしょうか？ それは、人間は忘れる動物だからです。

それでも、スーパーな記憶力の持ち主が時々登場します。さまざまな記憶術を用いているようですが、語呂合わせやイメージ連想法などが頻用される記憶術です。語呂合わせのユーザーは日本人だけではなく、米国で売れた医学書のなかには、Saint & Francis Guide Series*のように、英語の語呂合わせを売りにしている本もありました。

そんななか、日本の医学生は医学部での臨床実習以降、あるいは研修医やレジデントになると、患者さんの前で待たなしの鑑別診断を展開しなければいけません。ここで役に立つのがや

はり語呂合わせですね。

私が編集した『鑑別診断ネモニクス』では、重要な症状の鑑別診断について効果的に記憶するための語呂合わせ、すなわちネモニクスを、日本語と英語で提供しています。

例えば3章の「胸痛の鑑別」の語呂をみてみましょう。日本語の語呂は「赤い帯の浴衣を着た彼女」といって、緊張感で胸や肋骨あたりの膜が裂けて破裂しそうに痛くなり、胃は重く呼吸しづらく、自然に話せない」、英語の語呂は“PAE!! Mod(e)rn Hel(r)p = PAEに現代的な救助を”です。日本語の語呂は、帯＝带状疱疹、緊張感＝緊張性気胸、急性冠症候群、肋骨＝肋骨骨折、膜＝心膜・胸膜、裂けて＝大動脈解離、破裂＝食道破裂、胃＝消化管疾患、呼吸しづらく＝肺塞栓症、自然＝自然気胸、英語の語呂は、PAE = Pulmonary embolism + Pneumothorax + ACS (acute coronary syndrome) + Acute aortic dissection + Esopha-

メディカル・サイエンス・インターナショナル
4,104円(本体3,800円+税8%)
A5/224頁
ISBN 978-4-89592-874-8

geal rupture, Modern = Myocarditis/pericarditis + Others + Digestive tract disorder + Rib fracture + Nonorganic, Help = Herpes zoster + Pneumonia にそれぞれ対応しています。

楽しく勉強するとより記憶に残りやすいといわれています。この本のなかの語呂を自分なりにアレンジして使っていただくのもよいでしょう。医学生や研修医だけでなく、よりよい指導を目標に研鑽している指導医にも本書が役に立てれば幸いです。

(徳田 安春)

* Sanjay Saint と Craig Francis によるガイドブックで、inpatient 版と outpatient 版などがある。日本では MEDSi から、『セイントとフランシスの内科診療ガイド 第2版』(2005)と『セイントとフランシスの総合外来診療ガイド』(2009)が翻訳出版されている。